

2012年度 次世代ワークショップ

「東アジアの境界を超える人々と宗教をめぐる諸問題 —宗教社会学と公共人類学の対話から」 代表者：藤野陽平（日本学術振興会）

目的：

移民の増加→日本社会の多宗教化
←グローバルな理解の意義が高まっている
⇒ヒトの移動と宗教の研究は不十分
→現代の東アジアにおける移動と宗教に関する研究視角を模索

方法論：

東アジアを扱う人類学者・国内の問題を扱う社会学による対話
(ウチとソトの視点から移動するヒトをダイナミックに捉える)

社会的意義：

学術的知識を一般社会へ公共性の高い形で公開
：多文化共生にむけ、有用な知識を提供
(例：地方公共団体の担当者や教育関係者：移民社会で宗教の重要性が高いことは認識⇒公的機関というその立場性から実際の調査や関係性構築が難しい→研究者が仲介となることでホスト・ゲスト社会の関係性構築に寄与)

2つのセッション：

第一回【多文化共生の実践と宗教】：
越境者がエスニシティと宗教経験を通じて外部社会と関わる福祉、観光、教育といった実践の場を紹介

第二回【東アジアの移民とエスニシティ】：
第一回の議論をふまえ、移動に伴うエスニシティと宗教について議論
台湾、韓国、ブラジルといった地域性、特に日本を軸とした東アジアの移民を対象とする

学界内外との課題共有

より広い立場からの議論を行うため、東京と大阪での開催する

第一回【多文化共生の実践と宗教】 司会 稲沢努

11月18日（日）東京外国語大学、本郷サテライト
13:00-藤野陽平 趣旨説明
13:10-高橋典史「現代社会における移民と宗教」研究の課題と射程」
14:10-白波瀬達也「宗教組織による生活困窮者支援の社会的分析
—カトリック教会による滞日外国人支援と韓国系プロテスタント教会によるホームレス支援の比較から」
15:10-田中孝枝「観光ルートに組み込まれた日本の神社仏閣：中国人観光客を事例として」
16:10-川崎のぞみ「在日ムスリム二世世代への信仰継承における日本人ムスリム指導者の役割」
17:00-山田政信 コメント
17:20-18:00総合討論

第二回【東アジアの移民とエスニシティ】 司会 小林宏至

1月27日（日）国立民族学博物館
13:00-高橋典史 趣旨説明
13:10-藤野陽平「台湾の日本人妻にとっての日本とキリスト教」
14:10-李賢京「在日コリアンのキリスト教」
15:10-星野壮「「倫理」と「霊・術」—日本におけるブラジル系心霊主義運動の展開より—」
16:00-河合洋尚 コメント
16:20-18:00 総合討論

